

4

APRIL 2026
vol.584

ゆうあい

あなたがいて、わたし、がある。



<https://www.yuai.jp>



@YUAIKAI_OFFICIAL



水面を照らす青の灯火が、
誰もが自分らしく輝ける社会への道しるべとなりますように。



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp

役員紹介

学校法人ゆうあい学園

理事長 祐川暢生 評議員 竹下敏雄
 副理事長 中野伊知郎 評議員 木村幹雄
 理事 堀浩介 評議員 島津彰
 理事 佐々木若子 評議員 金澤京子
 理事 斉藤美雪 評議員 千山毅
 監事 西谷裕幸 評議員 紀谷美香
 監事 加藤祐幸 名譽理事長 大場公孝

社会福祉法人侑愛会

理事長 祐川暢生 評議員 西川忠弘
 副理事長 中野伊知郎 評議員 木村幹雄
 理事 竹下敏雄 評議員 竹原克長
 理事 佐直栄一 評議員 島津彰
 理事 小黒康廣 評議員 石堂正宏
 理事 小谷高大 評議員 砂土居雅恵
 監事 西谷裕幸 評議員 夏目智志
 監事 加藤祐幸 名譽理事長 大場公孝

施設長紹介

令和8年度もよろしくお願ひ申し上げます

理事長 社会福祉法人侑愛会 学校法人ゆうあい学園
 ワークショップまるやま荘
 園長 祐川 暢生 Sukegawa Nobuo

新生園
 園長 東 隆史 Azuma Takashi

クッキーハウス / おしま屋
 園長 守口 康朗 Moriguchi Yasuo

副理事長 社会福祉法人侑愛会 学校法人ゆうあい学園
 おしま学園
 園長 中野 伊知郎 Nakano Ichiro

明生園
 園長 中尾 雅子 Nakao Masako

ルーチェ
 所長 前田 典之 Maeda Noriyuki

事務長
 法人本部事務所
 石戸谷 浩二 Ishidoya Koji

侑ハウス
 園長 鎌田 俊介 Kamada Shunsuke

アシストほくと
 所長 河村 吉造 Kawamura Yoshizo

総合施設次長
 ワークセンターほくと / サポートカーム
 園長 小黒 康廣 Oguro Yasuhiro

ねお・はろう
 園長 上川 孝一 Kamikawa Koichi

あおいそら
 所長 片山 智博 Katayama Tomohiro

総合施設次長
 函館青年寮 / 函館青年寮通所部
 園長 小谷 高大 Kotani Takahiro

星が丘寮
 園長 兒玉 智樹 Kodama Tomoki

すてっぷ
 所長 小笠原 一郎 Ogasawara Ichiro

総合施設次長
 ぱすてる
 所長 小谷 素美子 Kotani Sumiko

侑愛荘
 園長 石村 正徳 Ishimura Masanori

つくしんぼ学級
 園長 坂田 貴宏 Sakata Takahiro

総合施設次長
 サポートはまなす
 所長 宮島 啓太 Miyajima Keita

サポートすばる
 所長 林 経夫 Hayashi Tsuneo

おひさま
 園長 小野 綾子 Ono Ayako

ゆうあい会石川診療所
 所長 高橋 和俊 Takahashi Kazutoshi

ワークショップはこだて
 園長 井出 尚久 Ide Naohisa

浜分こども園
 園長 小林 まゆみ Kobayashi Mayumi

名譽理事長
 ゆうあい会診療所
 所長 大場 公孝 Oba Masataka

おしま菌床きのこセンター
 園長 木口 智行 Kiguchi Tomoyuki

七重浜こども園
 園長 斉藤 美雪 Saito Miyuki

ゆうあい幼稚園
 園長 堀 浩介 Hori Kousuke

ゆうあいの理念と願ひ



理事長 祐川 暢生

先日、ある講演会で印象に残る話を聞きました。
 2025年度に全国の大学医学部へ入学した人数は9,218人で、定員に対する充足率は100%だったそうです。一方、全国の介護福祉士養成施設への入学者は7,356人、充足率は66.9%にとどまっています。さらに、その入学者の半数は外国籍の学生だということでした。
 この数字を目の当たりにし、日本の今後の福祉のあり方について、さまざまな思いが巡りました。
 この現状を悲観的に受け止めることもできるでしょう。しかし、見方を変えれば、こうした時代のなかで、福祉の仕事に携わり続けているゆうあいの職員は、外国籍の職員も含め、社会にとってかけがえのない存在であると言えるのではないのでしょうか。この貴重な人材が安心して仕事に専念できる環境づくりに、ゆうあい全体で取り組んでいく必要性を改めて痛感しています。

社会では「共生」という言葉が広く使われる一方で、他者を排除するような言葉や考え方が目立つ場面も少なくありません。「命は地球より重い」という言葉があるにもかかわらず、それが軽んじられているかのような出来事が世界各地で起きています。わたしたちが生きている現実には、多くの矛盾を抱えています。
 福祉とは、そうした時代のなかで、目の前にいる一人ひとりの声に耳を傾け、その人の幸せを願ひ、支えていく営みです。日々の仕事のなかで課題に直面すると、ついその原点を見失いそうになることもあります。それでもわたしたちは、日々の実践を通して地域社会に福祉の大切さを伝え続けていきたいと考えています。
 それが地域の皆さまからわたしたちに寄せられる期待であり、その期待に応えていく(レスポンスすることこそが、わたしたちの責任(レスポンスビリティ)なのだ)と思うからです。

「あなたが安心して豊かに暮らせる社会を創る — インクルーシブなわたしたちの街を実現する」。これが、ゆうあいが大切にしている理念です。

わたしがときおり口ずさむ詩に、尹東柱(ユン・ドンジュ)の「序詩」があります。美しく、厳しく、そして静かな強さをもつその言葉に、わたしはいつも心を打たれます。最後に、その詩を紹介させていただきます。

死ぬ日まで空を仰ぎ
 一点の恥辱(はじ)なきことを
 葉あいにそよぐ風にも
 わたしは心痛んだ
 星をうたう心で
 生きとし生けるものをいとおしまねば
 そしてわたしに与えられた道を
 歩みゆかねば

今宵も星が風に吹きさらされる

2026(令和8)年度も、ゆうあいへのご支援をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

世界自閉症啓発デー函館地域実行委員会

地域とつながる、 笑顔がひろがる。

地域を共に支える関連団体のご紹介

ゆうあいが掲げる理念「あなたが安心して豊かに暮らせる社会を創る—インクルーシブなわたしたちの街を実現する」は、法人だけで実現できるものではありません。道南エリアには、それぞれの専門性や特徴を生かしながら、ともに地域福祉の向上に取り組む頼もしいパートナーがたくさん存在します。

今月の特集では、「地域とつながる、笑顔がひろがる。」と題し、ゆうあいと関係性の深い3つの関連団体をご紹介します。道南にある施設の連携でご本人または職員向けに様々な活動を可能にする「南北海道知的障がい福祉協会」、自閉症をはじめとした発達障がいへの理解を広く地域社会へ発信する「世界自閉症啓発デー函館実行委員会」、そして行政や多職種と協働して地域の課題解決に挑む「函館地域障害者自立支援協議会」です。

ゆうあいの職員として日々働きながら、各団体の事務局の一員として活躍する3名の方よりそれぞれの活動をご紹介します。

2 取り組み内容について
コロナ禍が明けた2024年、配信開催が主流になっていた「Blue」の音楽祭が有観客開催となり、出演者の公募を開始しました。趣味で音楽活動をしている私は出演者に知人も多く、また運営側と出演者の意向をよりスムーズに繋ぐ必要があったことから、両者の橋渡し役を担うこととなりました。実行委員会の事務局業務に加え、音楽祭の企画運営にも携わっておりますが、2026年より運営主体が「Blue」の音楽祭実行委員会へ移行したことに伴い、現在はその事務局業務も担当しています。終演後、観客の方々が笑顔で会場を後にされる姿を見るたびに、開催して良かったという大きな喜びを感じています。



1 活動目的について
はじめに、世界自閉症啓発デー函館地域実行委員会以下、実行委員会には様々な立場や思いを持つ委員が集まっており、その多様性が認められている団体です。そのため今回は、実行委員会を代表してではなく、あくまで個人としての関わりについてお話しさせていただきます。世界自閉症啓発デーの趣旨や活動の歩みについては、ぜひ「世界自閉症啓発デー in Hakodate」のホームページ(左のQRコードより)をご覧ください。私は2022年10月より、ゆうあい会石川診療所にて高橋所長の事務作業の負担を軽減することを目的の一つとした業務に従事しております。実行委員会の事務局業務を務める所長の姿を間近で見ると、運営を事務面から支えたいと考え、実行委員会に参加いたしました。

3 ゆうあいとの関係について
現在、ゆうあい会石川診療所が事務局を務める実行委員会ですが、2012年当初は発達障害者支援センターあおいそらがその役割を担っていました。2014年に実行委員会が点した五稜郭タワーのブルーライトアップは、函館の春の情景の一つとしてだけでなく、今や世界的にみても美しい、と広く認知されるようになってきました。私自身、ゆうあいに入職してからは、この活動を自分事として捉える機会がなかったかもしれません。当初は広い意味で業務の一環として関わり始めた活動でしたが、今ではこの活動を通じて得ることのできる地域の方々との繋がりがやがや、私にとってかけがえのない財産となっています。



3/29に開催されたBlueの音楽祭

ゆうあい会石川診療所
杉田直人



函館地域障害者自立支援協議会

2 取り組み内容について
具体的な取り組みは多岐にわたります。函館地域は各専門部会が地域の実情にあわせて協議会を立ちあげ、懇談会や研修会の企画運営を精力的に行っています。例えば「相談支援部会」では、複雑化・多様化する相談ニーズに対し、事例検討を踏まえた各種相談窓口の事業理解を図るための実践的な研修会を企画しています。「就労支援部会」においては、新たな就労選択支援事業の理解促進を図るための研修会の企画や、工賃向上のための課題解決に向けたプロジェクト委員会の立ち上げ、その課題に特化した具体的な仕組みを生み出したりしています。また「権利擁護部会」では、虐待防止連絡協議会を組織

1 活動目的について
函館地域障害者自立支援協議会(以下、協議会)は、障がいのある人が住み慣れた地域で自分らしく、安心して生活を送れるよう、地域のさまざまな分野の方が担当委員になって協議する、いわば地域課題解決の「要」ともいえる協議体です。現場で起きている個別の課題を丁寧に取り上げ、行政や関係機関とその課題を共有し、既存のサービスで足りないものは新たに作り出し、課題や問題について多職種が協働して取り組むことで、地域全体の障害児者を取り巻く環境や社会資源の質の向上、および支援体制の強化を目的としています。現在、函館地域では、多職種が参画する担当者会議の下に、「相談支援部会」「就労支援部会」「子ども部会」「権利擁護部会」「地域移行定着支援部会」という5つの専門部会を軸に活動を展開しています。これらの部会を通じて地域の支援者が「顔の見える関係」を築き、単なる情報交換の場に留まらず、誰もが排除されることのないインクルーシブな共生社会の実現を目指して、日々活動を続けています。

私たちは、協議会という大きなネットワークの重要な結節点として、他の法人や専門職の皆さまと手を取り合い、現場で得た知見を地域全体の財産へと昇華させていく使命があると感じています。これからもこの道南・函館の地が「日本で一番世界で一番障がいのある方が暮らしやすい街」になれるよう、地域福祉のリーダーシップをとりながら、情熱を持って取り組んでいく所存です。地域の皆さまと共に、誰もが輝ける未来を目指して。



小谷素子

南北海道知的障がい福祉協会



弾けるような笑顔や、真剣

1 活動目的について
南北海道知的障がい福祉協会(以下、当協会)は、昭和45年の発足以来、半世紀以上にわたって渡島・檜山地域の知的障がい福祉をリードしてきた歴史ある団体です。令和8年3月現在、10法人・53の施設(事業所)が加盟し、地域に根差したネットワークを構築しています。私たちの活動のモットーは、「知的障がいのある方々が、ご本人らしく、日々笑顔で活気ある暮らしを送っていただきたい」という願いです。当協会の会則にはその目的として、「知的障がい者の福祉の向上及び増進」が掲げられています。障がいのある方が、住み慣れた地域で一人の人間として尊重され、安心して過ごせる環境を整えること。そして、地域住民の皆さまと相互に力を合わせ、共に歩む「共生社会」の土壌をこの道南の地に耕し続けることが私たちの使命と想っています。

2 取り組み内容について
当協会の活動は多岐にわたりますが、特徴としては「利用者主体の行事」と「支援員の資質向上」の両輪が非常に活発に回転している点です。まず、利用者の方々から社会との繋がりを実感し、人生を豊かに彩る場として、加盟施設が合同で企画するスポーツ大会やレクリエーション、アートイベントなどを定期的に開催しています。法人や施設の垣根を越え、多くの方が一堂に会して汗を流し、表現を楽しむ。そこで生まれる弾けるような笑顔や、真剣

3 ゆうあいとの関係について
ゆうあいは、当協会の設立当初から事務局員や執行部役員などを担う職員を多く輩出して活動のリーダーシップを取り続けてきました。近年注力しているアートなどの表現活動を通じた啓発活動なども、協会の活動と重ねることにより大きな社会的影響力を持てる実感しています。法人の取り組みには限界がありますが、当協会という大きな器の中で、ゆうあいが持つ経験と他法人の熱意が混ざり合うことで、道南の福祉はより豊かなものへと進化していくように感じます。私たちはこれからも、知的障がいのある方、そのご家族、そして支援に携わるすべての人々が手を取り合い、誰もが「この街で暮らしやすかった」と思える未来を、共に創り続けていくことを目指してまいります。



新生園
十文字 秋人



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp